

最期の一瞬に問われるもの

いつか、この旅は、終わりを迎えます。

人生を一つの旅に喩えるならば、

この旅は、いつか、かならず、

終わりを迎えます。

では、この旅において、

我々は、何をめざすのか。

若き日に、我々は、

「勝者の思想」を抱いて、旅に出ます。

誰よりも早く、

誰よりも遠くまで辿り着こうと思い、

旅に出ます。

しかし、いつか、我々は、その思想が、

この旅から、喜びを奪っていることに気がつきます。

周りの美しい景色に目を向ける心のゆとりを失い、

同じ道を旅行く人々との心の結びつきを失っている、

その自分の姿に気がつきます。

そして、その自分の姿に気がつくとき、我々は、自分の心が見えてくる。

自分が本当に辿り着きたい目的地が、見えてくるのです。

そして、我々は、心を定める。

その目的地をめざし、誰と競争するのでもなく、自分の精一杯の歩みで、歩んでいこうと思ひ定めるのです。

そのとき、我々の心の中には、「達成の思想」が生まれている。

しかし、年を重ね、長き道を歩むにつれ、いつか、我々は、一つの真実を知ります。

その目的地に辿り着くことは、約束されていない。

その真実を、知ります。

けれども、そのとき、我々は、もう一つの大切な真実も、知ります。

その歩みの中で、成長することができた。

様々な苦勞や困難を乗り越え、

目的地めざして一生懸命に歩み続けてきたことによって、
たしかに成長している自分に、気がつくのです。

そして、そのことに気がついたとき、

静かな覚悟が定まります。

たとえ目的地に辿り着くことができなくとも、

その目的地をめざして、力のかぎり歩み続けていこう。

そして、どこまでも成長していこう。

その覚悟が定まるのです。

そのとき、我々の心の中には、

「成長の思想」が生まれている。

そして、その思想を抱いて歩むとき、

いつか、不思議な感覚を得ていることに気がつきます。

旅の途上で巡り会うすべての人々が、

かけがえのない人々であると、感じられる。

旅の途上で出会うすべての景色が、

深い意味を持った景色であると、感じられる。

しかし、そうして歩いていく旅も、
いつか、終わるときがやってくる。

そして、

その旅が終わろうとするとき、

その最期の一瞬に、

あの不思議な人物が現れる。

「永劫回帰」の物語の、あの人物が現れる。

そして、我々に、静かに問う。

素晴らしい旅であったか。

そのとき、我々は、答える。

ええ、素晴らしい旅でした。

振り返れば、この旅の途上では、

様々な苦労や困難に出会いました。

失敗や敗北の苦しさも体験しました。

挫折や喪失の悲しみも味わいました。

しかし、そのおかげで、私は、

こうして成長することができました。

だから、この旅は、素晴らしい旅でした。

その答えを聞き、その不思議な人物は、ふたたび問う。

では、その素晴らしい旅に、感謝するか。

その問いに、しばしの沈黙の後、我々は、答える。

ええ、素晴らしい旅でした。

しかし、私にとって、本当に感謝すべきは、
素晴らしい旅ができたことではありません。

この旅に出ることができた。

そのことが、私にとっては、最も深い感謝です。

我々は、いつの日か、

この旅の最期の一瞬、

そう答えるのでしょうか。